

あきた洋上風力  
最新線

# 作業員、船員の育成へ本腰

## 日本郵船と日本海洋事業が設置

(神奈川県横須賀市)が共同で設置。市場拡大が見込まれる洋上風力分野の専門人材を育成するとともに地方活性化につなげたい考えで、4月上旬にも受講生の訓練を開始する。

洋上風力発電設備の作業員などを育成する訓練センター「風と海の学校 あきた」が4月1日、男鹿市の男鹿海洋高校内に開所する。海運大手の日本郵船(東京)と訓練指導を担う日本海洋事業

### 男鹿海洋高内 「風と海の学校 あきた」来月1日開所

風と海の学校は男鹿海洋高の実習棟内に整備。水深10メートルのプールに風車を模した模擬タワーを設置。棟内の教室には作業員輸送船(CITV)の操縦訓練を行う最新のシミュレーター室のほか、講義室を備える。訓練の主な対象は、設備の点検保守業務を手がける作業員や作業員輸送船などの船員。



風車を模した模擬タワーが設置されたプール(日本郵船提供)

今年1月に国際標準や国際条約に基づく訓練提供施設としての認証を取得。両社が出資して3月1日付で運営会社を立ち上げた。日本風力発電協会(東京)の推計によると、洋上安全作業訓練を受けた人材の必要数は2030年に年間約2900人、40年に約7900人、50年には約1万1400人に増加する。秋田県沖は洋上風力発電の整備促進区域に全国最多の4海域が指定されている。日本郵船グループは、ネオクループの川上哲治船長は「秋田は日本の洋上風力の基幹県と認識している。風車に特化した人材育成の仕組みを秋田で構築し新たな人の流れをつくる」と話す。

とは、企業としても地方創生の観点からもメリットがある」と強調。地元での海洋人材確保に向け、男鹿海洋高生に操船シミュレーターを体験してもらうほか、住民向け海洋関連イベントを開催する考えを示した。日本海洋事業の横田哲也常務は「まずは高品質な訓練を提供する。その上で関係機関と連携して、秋田で洋上風力に携わること考えてもらえるような発信をしていきたい」と話した。風と海の学校では、海外の風車メーカーなどをつくる非営利組織GWO(本部デンマーク)の国際標準に基づき5つの基礎安全訓練のうち、模擬タワーのはしごを使った船からの移乗など海上での生存技術を学ぶことができる。残る4項目の訓練は、昨年東北電が秋田火力発電所内に整備した「風力トレーニングセンター 秋田塾」で受講できる。開所によって、GWOの基礎安全訓練をすべて県内で受けられるようになる。船員が受けなければならない「STCW基本訓練」も受講可能。プールを使った船での安全確保訓練のほか、旧船川南小学校の敷地を活用し火災時の消火訓練を行う。2030年ごろにはすべての訓練を合わせて年間千人程度の修了生を輩出する見通し。

総事業費は非公表。経済産業省の「洋上風力発電人材育成事業費補助金」を活用した。各訓練の受講申し込みは随時受け付けている。

(藤田祥子)